

**NUDE**

Rootage



1. Fairy
2. Jealousy
3. Rainbow
4. Message
5. NUDE
6. Rush out
7. Radiance
8. Leaf
9. I'm here
10. Desire
11. Please don't give up

# FAIRY

傷だらけの羽根のまま どこまで飛んでゆけるのだろう  
不揃いな身なりなのは 様々な時を過ごしたから

みじめな自らを傷つけ 何を背負って君は走り続ける  
喉がカラカラだ 見せかけの愛、そんな言葉でもうごまかさな  
誰にも見せたことのない 孤独のその眩しい瞳で

どこまでも飛んでゆく この悲しみが消えるまで、気高き掃き溜めの天使は  
当てもならない天気予報に振り回される人生 切り開くなら、今

ハート型の基盤を埋め込んで 気付かないフリで君をたぐり寄せる  
恋の炎を秘かに燃えたぎらせ 焼けたその声

運命が交錯する街角で見つからずに 甘いキスを戸惑いつつ繰り返す  
息をするのも忘れてた 言葉じゃないのよ、憎めないその眼差しは  
私を大胆にさせてく、しだいに 現実と真実の違いは何？

過去を見るのは記憶 未来を見るのは夢 心、ときめかせ  
口の悪い人たちの言葉などすべて忘れさせて 愛に守られて

信じていたことに自信が持てず 本物の愛でしか応えられない  
砂埃と土煙と汗 一杯の水でいい

心を置き去りにしての仕事が 日ごとに心を蝕んでく  
サイズの合わない帽子をかぶって 太陽があらゆるものを焼き尽くす  
妖精が夜中にそっと顔を出す 光と陰の狭間で

どこまでも飛んでゆく この悲しみが消えるまで、気高き掃き溜めの天使は  
当てもならない天気予報に振り回される人生 切り開くなら、今

歌うようにしゃべる君は 幼い顔で、目をキラキラさせて

過去を見るのは記憶 未来を見るのは夢 心、ときめかせ  
口の悪い人たちの言葉などすべて忘れさせて 愛に守られて

歌うようにしゃべる君は かろうじて形をとどめたその夢、抱きしめて

# JEALOUSY

絶え間なく流れる涙 尊く美しい素顔  
あえて言葉にはしないけれど ずっとそばにいるよ  
あなたの中に私を見て 二度と会えなくてもいいの？  
ずぶ濡れのまま立ち尽くす 孤独を抱え  
背中に刺さったトゲを抜きさって 悲しみも怒りもすべて全部飲み込んで

トゲのある言葉で私を傷つけるから 血まみれの心臓をえぐり出す  
ライターも冷たい日には なかなかうまく点かない  
痛みを癒す薬に今、手を伸ばすばかり

2枚重ねの毎日を 戸惑いながら繰り返す  
悪気もなく小さな嘘で 君を笑わす  
心に秘めた願い一つ 言葉にすれば壊れそうで  
素直なままでいられない きっと君も同じ  
今までもそして、これからもずっと 結んだその手をけして離さないでいて

それぞれの形で愛を育むから 強くなければ優しくはなれないから  
矛盾に満ちた人生を注ぐ、ワイングラスに  
あの日、あの時君は 嬉しさに震えていたね

誰のためにそんなに綺麗になるの 人肌のぬくもり求めて、今日もまた  
目的もなく歩いてきたように見える この道の先、何があるのか

胸を締め付ける思いにうなされて 届かない言葉にまた、今日も暮れる  
矛盾に満ちた人生を注ぐ、ワイングラスで唇を濡らす  
恋の暗号、解いてみせて

# RAINBOW

湿り気のある階段 一足飛びに駆け上がり  
吹き出す汗 息を弾ませ  
見上げる空は高く 蝉の声が響き渡り  
夏はもう、すぐそこまで来ている

遠くまで届くように 嫌なことも全部吹き飛んでゆく

背負うものの大きさが あなたを大きくしてく  
この命、燃やすものは  
いつまでも、立ち止まってはられないから走り出す  
闇を裂き 海原を突き進む

理由もなく涙が出る悲しみの夜は  
膝を抱えて、すくんでた  
守るべき愛するものが傷つかぬように そっと優しく包む

優しい光の射す公園でひと休みして  
流れる雲 すべてを見ている  
裏話と無駄話は 皮肉にもよく似ているね  
あなただけの秘密を教えてほしい

孤独を埋め合わず眠りが 夢を膨らませてゆく

年を重ねるたびにまた 優しさをなくしてくから  
必要のないものは全部捨てる  
あなたと会うたびにまた 新しい気持ちになれる  
そんなこと、今まではなかった

正しいことが何かなんて、まだわからないけど 信じた道を歩くのさ  
どんよりとした空に 白く煙った世界に虹を架けて

# MESSAGE

時は残酷に 何もかもを変えてゆくけれど  
失って初めて、気付くことがある 君との日々はあれは奇跡なんだと  
君のあくびが移る 顔見合わせ笑う  
今ではもう 考えられないことだけど

怪しく赤い炎が陰を揺らしてる 素顔を隠して  
誰のために飾り立てた テーブルの上、孤独を深め泣くのか

夜が深みを増す 心の平安をかき乱す  
たとえ悲しみに街が濡れていても  
あなたにそっと 本当の思い届けたい  
未来を切り開く、そのためのメッセージ  
飛び立つには勇気があと少し必要さ

危ういアンバランスな瞳で見つめ合う二人 手を握るだけで  
ありがとうがうまく言えず ただそばに居たい、あなたとふたり…それだけ

強がりなふたりだから 沈黙は長く続き  
くじけそうにもなるけれど それを隠すことも出来ず  
ふたりを結ぶ弱い絆一つ、しがみつき  
変わることなく愛せるはず 信じてると…いつまでも

ああ、見上げた空には遠くまで 一筋の光が胸、突き刺す  
あなたの心に火をつけるため 何が今出来るだろう

あなたに話す言葉は どんなに遠く離れても  
たとえ同じ言葉でも 新たな意味を加えて

# NUDE

生きていけばいろいろあるさ 霧の中、轍に足を取られ  
暗雲立ち込める 悲しみの横顔のまま、うづくまる  
大きな声で泣いたっていいんだよ ぼくがずっとそばにいてあげる  
絵にならない孤独を抱え どんな風に見られたい？あなたは

とっておきのエピソード あなただけに教えてあげる

むつかしい事など、よく解らないけど それが正しい事、知っていた  
生きていることは奇跡の連続、あなたが教えてくれた  
素直にもっと甘えていいんだよ もっとズルくやり過ごすのもいい  
ふしだらな唇ふるわせ 愛の言葉を囁くの？あなたは

腰をひねり、擦り寄せて 官能の世界に堕ちてゆく  
女になるのに必要なだけの 優しいカラダ、受け止めて

きらびやかな装飾に彩られた通りをゆく 隠れ家抜け出し  
おぼつかない二人の関係など、今は忘れたい  
雪のように桜散る町並み あなたは私の言葉を飲み込んだ  
生々しいその息使いで ドラマチックな展開を期待して

腰をひねり、隠しようもない 欲望のまま素肌をさらす  
はかなげに蛍が舞うシルエット 盲目の夜が更けてゆく

偽のIDを持ち、何を祈るのか 臆病な狂気の素顔  
雪の毛布の上 この命ある限り  
何をすれば信じられる？

ほてったその顔を冷ます水を浴び 痛みも悲しみも遠くへ

# RUSH OUT

今も壁の向こう ひとりきり、溢れ出す涙をこらえて  
信じるものが何か見つからずに 夜が暮れてく  
Oh, 愛するってやつは 何もかもを奪ってゆく

争いは続いてゆくから 走った跡が意味を作り出すさ  
太陽を見るには眩しすぎる まだ辿り着けない

ずっと君は疑いもせず いつかした上辺だけの約束を信じて  
裏切りに気付かされた時はきっと Ummh, 孤独に  
理解など出来ずに ポジティブにはなれない時も

輝きを失わないように 立ち止まってるわけにはゆかない  
平常心でいられるはずなどない その心、奮わせ

いつかいっしょに見てみないか? どんな場所にたどり着けるのか  
勇気を振り絞って歩いてゆくなら どんなことも受け入れられる

争いは続いてゆくから 走った跡が意味を作り出すさ  
太陽を見るには眩しすぎる Ah, 辿り着けない

旅を続けた靴はボロボロだ 誰かその手を差し伸ばしてくれないか  
この手で運命を切り開くなら どんな毒も飲むことだろう  
すべてを知ることなど できるはずもないよね  
もっと愛せるはず きっと、ありのままに

# RADIANCE

生温い風が頬をすり抜ける  
痛みも何も感じられなくなる  
ため息の出るような 毎日やり過ごす  
がむしゃらになれるものに この身すべて委ねたい

孤独の夜には あなたを照らす光になりたい  
涙も忘れるように

強い日差しが頭を照りつける  
レンガ造りの壁に背をもたれ  
あなたと繋がるため 覚えたズルい嘘も  
後ろ前に着た服のように滑稽に映るもの

現実を超える真実が見たいから  
そっとあなたが隠した 傷をぬぐい去る

いいことなんて続くはずないなんて  
わかったふりで 心を偽るの？  
幼い頃に見た 夢はもう遠い昔  
空高く舞い上がる ぼくはいつでも飛べるさ

何度も何度も何度も あなたを呼ぶよ  
本気になれるものを見つける 旅に踏み出すのさ  
現実を超える真実が見たいから  
そっとあなたが隠した 傷をぬぐい去る  
孤独の夜には あなたを照らす光になりたい  
涙も忘れるように

# LEAF

透き通った葉を眺めて 心の垢を落とす  
できれば 今は何も考えたくはないのさ  
悲しいことは 今は目をつむって  
しばらくこのままで いさせてほしい

冬も凍ることのない川のようにあれば

奪い合いの中であなたは 疲れた目でこちらを見てた  
明けても暮れても 争いが絶えない  
どんなに苦しい時でもふたりは  
信じることだけ 忘れなかった

闇の中で見つけたもの 決して放しはしない

悲しみ、溶けてゆく  
あなたを見つめてる  
愛さずにはいられないから

地図にない島 ふたりで切り開く  
どんなに時間が掛かるか知っても

# I'M HERE

風がないから走ってみた  
感じられるその手応えが欲しくて あぁ、痛みでもいい  
夢ははかなく碎かれるもの  
それでも人は追わずにいられないんだ 叫ぶ心

さんさんと陽が照りつけ 目を細めてみる  
目的地は遥か遠く 陽炎に揺らぐ

不揃いな歯でニヤリと笑う  
清らかな眼差しの奥に そっと闇を隠し  
絵にもならない街を駆けてく  
考えるより速く感じる  
濃い霧をかき分け

満たされない心にそそぐ優しさ  
戸惑いも諦めも振り切るから

強がりの君は 言葉にはしないけど  
陰で流す涙も いつか乾き、笑顔輝く  
愛すべきものみな、鞆に詰め込み 鉄の道ゆく

唇に歌をのせて  
また、新しく始められる そんな気がしたんだ

# DESIRE

眩しい瞳で見つめる その先には  
心、締め付ける あなたの眼差しがある  
本心を聞き出すための 駆け引き繰り返す  
甘いイチゴを口にして

頭の中、私の曲 流れ始め、止むことがない  
ダンス、白いドレス身にまとい 隠せない想い

ああ、心が融けてゆく その鎧剥がし、愛に溺れてく  
大丈夫ふたりなら、うまくゆけるはず もう待てない

信じていいの？ そのありのままの言葉だけを  
情熱、ああ タンゴの調べで誤魔化さないで  
レンガ通り、薄明かりの下で繰り返すキスに  
もうどうにかなってしまいそう

優しさは時に自己満足で終わることがある  
ダンス、ふたりでしか 見つけられない世界を見せて

あなたのその顔にあるアザさえも愛したい、頬寄せ  
濡れた唇から尾を引く切なさ 不安を隠して  
恍惚の表情を浮かべ、絡み合う 熱に曇る窓  
刻む2つの針が交わるその時 最終のベルが鳴る

# PLEASE DON'T GIVE UP

肉眼では見えないほど小さな希望でも  
それにすがりたいと思ってしまう  
自分を嫌いにさせないで

まだ夜が明け切らない青の時間  
目的地まで 荷台に乗り、旅は続く  
冷たい手を擦り合せ 魂、燃え尽きることなく

幸せになるため、ぼくらは手を伸ばし 木々がざわめく水が産まれる場所、探して

書くのが難しい 話すのが難しい  
理解するのはもっと難しい 諦めは容易いこと

あなたが初めて立てるようになった日から  
そのままの君をずっと愛してる人が  
遠くから見守ってくれる 優しく包んでくれる

幸せになるため、笑顔を忘れない どんなに辛くても、涙のままいられない  
幸せになるため、痛みを忘れない 愛しいものたちをみな、胸に抱えずっと暖めて

All Songs Written by Hidenori Matsuoka  
as Rootage

Special Thanks to...

Yukari Kawamura  
marukonoko  
Tamiko Haga  
Maiko Uchida  
Haruna Seki  
Mementomori

Official Web Site  
[www.theRootage.com](http://www.theRootage.com)

Email  
[info@therootage.com](mailto:info@therootage.com)

© 2006-2012 Hidenori Matsuoka

このCDは、権利者の許諾なく貸貸業に使用すること、また、個人的な範囲を超える使用目的で複製すること、ネットワーク等を通じてこのCDに収録された音を送信できる状態にすることは、著作権法で禁じられています。

© Hidenori Matsuoka STEREO MADE IN JAPAN

COMPACT  
disc  
DIGITAL AUDIO

**NUDE**

Rootage